

## 第1回 武蔵野市文化振興基本方針策定委員会 議事要録

○日時	平成29年6月21日(水) 午後6時30分～8時30分
○場所	市役所8階812会議室
○出席委員	◎小林真理、若林朋子、宮崎倉太郎、小川希、木本幸恵、○酒井陽子、高萩宏、青木稔、富島佐紀、花田吉隆 (◎委員長、○副委員長)
○傍聴者	なし
○事務局	市民部市民活動担当部長、市民部市民活動推進課長、教育部長、教育部生涯学習スポーツ課長、(公財)武蔵野文化事業団常務理事、吉祥寺美術館館長 他

### 1 開会

#### (1) 委嘱状交付

#### (2) 市長挨拶

武蔵野市は今年、市制施行70周年を迎える。振り返れば、市民自ら様々な文化活動が行われており、それがまちの魅力となり、他の地域からの評価にもつながってきていると思う。また、武蔵野市には、この春にリニューアルし再スタートした市民文化会館をはじめ、公会堂、吉祥寺美術館、吉祥寺シアター、武蔵野プレイスなど多様な文化施設があり、各施設では多様な市民の活動が行われているが、市が目指す文化の考え方や体系が明らかになってはいない。第五期長期計画・調整計画の論議でも、文化のあり方について議論すべきだという意見もいただき、計画にも文化振興に関する方針の策定を位置づけた。

今年は、市民文化会館での国際オルガンコンクールやホストタウンになっているルーマニア国のブラショフ。フィルハーモニー交響楽団とともに第九の合唱、吉祥寺美術館でのアールブリュット展なども予定している。こうした市が主導して行う文化だけでなく、市民芸術文化協会などの市民団体、子ども達の学校等での活動を振り返りながら、今後目指すべき武蔵野の方向について、広く具体的にご意見頂きたいと思っている。

武蔵野市はイメージも良いねと言われているまちであり、吉祥寺も住みたいまちランキングにも上位になっているなど、外からの評価を頂いているところだが、本当に生活する市民が実感を持ち、誇りを持っていると言えるのか、もっと議論が必要であると考えている。長期にわたる議論となるが、恵まれた資源を有効活用し、武蔵野市ならではの文化に結び付けるためにご協力いただきたい。

#### (3) 委員自己紹介

#### (4) 事務局紹介

### 2 議事

### (1) 正・副委員長選出

資料2「武蔵野市文化振興基本方針策定委員会設置要綱」第4条に基づき、委員長の互選が行われ、委員長に小林真理委員が選出された。また、副委員長に酒井陽子委員が委員長より指名された。

委員長から「みなさんから多くの意見をいただきたいが、時間厳守で議事進行をとらせていただくため、ご協力をお願いしたい」とあいさつがあった。

副委員長から「第四期長期計画・調整計画の策定時の市民公募委員として参加した。その際の長期計画には文化の言葉はあまり出てこなかったが、第五期長期計画・調整計画で前面に出ていたことはうれしく思っている」とあいさつがあった。

### (2) 委員会の運営について

資料3「武蔵野市文化振興基本方針策定委員会運営要領(案)」により、委員会の公開、録音・写真撮影、議事録作成等について説明し、承認された。

### (3) 策定における目的とスケジュールについて

資料4-1「武蔵野市文化振興基本方針(仮称)の策定目的と取り扱う視点(論点)」、資料5「武蔵野市文化振興基本方針(仮称)の策定スケジュール」により、事務局が説明を行った。視点として、①文化に関する施策の方向性やあり方、②市立施設の役割、③文化振興の担い手となる主体の範囲や役割が示された。

【委員長】 タイトなスケジュールだと思う。

【事務局】 論点も多く、来年度までかけて委員会を設けるようにしている。年度末の中間のまとめまではタイトなスケジュールとなるがご協力をお願いしたい。

### (4) 武蔵野市における文化施策等の現状について

資料6「武蔵野市における文化に関する主な事業の概要」により、事務局が説明を行った。

### (5) アンケート調査結果について

資料8「文化に関する市民アンケート調査(概要版)」により、事務局が説明を行った。

### 意見交換

【委員長】 国や東京都の政策動向は資料9にあるとおり、先日の国会で文化芸術振興基本法が改定され、文化芸術の施策が、コアな部分の芸術振興から広い範囲をフォローするものになってきている。法律では自治体に計画をつくるように求められているが、法律に従うのではなく、地域の主体的な考え

や特性に合わせていくべきであり、武蔵野市ならではの文化振興を考えていければよいと思っている。

もうひとつ注目するのはオリンピック・パラリンピックの関係である。今世紀で最も文化に予算がつくタイミングだと思うので、この時期に将来の武蔵野を考えて環境整備などを進めることができるかが大事である。

この策定委員会において今後議論を進めていく中で、事務局から説明のあった策定の目的や3つの論点について共通の認識を持っていくことが必要であると考えている。

【委員】 文化芸術振興基本法で「芸術」という言葉が使われなくなったように、「芸術」という言葉であれば分かりやすいが、文化は広い。広く浅く検討していくのか、それとも武蔵野市の文化はコレという風にフォーカスを絞るのか。武蔵野市の文化を定義した上で、方向性を打ち出した方がよいと思う。ゆるく浅くあたり障りのない方針をつくっても意味がないため、コンセプトを明確にする、例えば多様性や現代アート、世界に通用するインターナショナルなどの特化するキーワードを決めてはどうか。

【委員】 「文化」は芸術だけでなく、生涯学習や教育なども関連するが、どこまで話し合うべきかと感じた。

【委員】 資料は事前に配付しておいてもらいたい。武蔵野市における文化的なまちづくりの大枠について議論をして、共通認識を持っておく方がよいと思う。アンケートでは自然が大きな意味合いを持っており、重要な要素だが、ここでは自然の保護ではなく、文化と自然がどう関連するのか捉えておく必要がある。また、子どもがキーワードとして挙げられていたが、子育て中の方ではなく、高齢者の回答が多ければ違った結果になるのではないか。何に立脚するべきか、満遍なく捉えて、対象ごとに考え方を示してもよい。

【委員長】 資料の事前配布は自分からもお願いしている。今日は1回目資料が多かったと思うので難しかったようだが、次回からはお願いしたい。

【委員】 アンケート結果に市民の希望は示されていると思うので、ある程度は従うことにあると思う。一方、他の委員の言うように、どこに焦点を当てるのかが大事になる。自分も子育て中なので、子どもに様々な文化的な活動をさせたいとは思っているが、武蔵野市は子どもに機会を与えてもらっている一方で、子どもがやりたいことをやれる場所がないように感じている。スペースの活用方法として、子どもが自由に活動できる場所について取り上げてもらいたい。

【委員】 アンケートの回収率が高く、結果を議論に活かさなければと感じた。また、様々な部署の職員が集まり、ワーキンググループとして事前に議論しているのは素晴らしい。市民向けのワークショップも予定しているなど、行政

のみで作ってしまうのではなく、広く意見を募っていく姿勢を感じている。社会や経済の情勢も変化するため10年という計画の期間は長いと感じた。ただ、文化は10年程度かけて育てていくものだと思うので、10年間で段階に分けたステップを議論していければよいと思う。

「武蔵野市らしさ」について議論することになると思うが、どのまちにも適用されるようなものではなく、武蔵野市だけの特徴を活かした計画にできるとよい。それを打ち出していく特徴の背景には、武蔵野市が目指すまちや住みたいまちの姿を合わせて議論できれば、市民に説明する時も説得力のあるものになると思う。

**【委員】** 文化振興基本法で芸術は定義されているが、文化の定義はなく、芸術の外に広がっているものである。だからといって、緑やコミュニティも含めて、何もかも議論していくわけではない。民の役割や行政として関与できる範囲もあるため、資料4-1に示された視点が出発点になるように感じた。自分も文化的な活動として月に1回程度ライブや演劇を観に行っているが、市外の施設が多いことが実情である。それが武蔵野市ならではの文化が醸し出される雰囲気とどう結んでいくのかを考えていきたい。

**【委員】** 方針についてだが、条例のように議会で議決されるものなのか。

**【事務局】** 議会に報告はしていくが、議決事項ではない。長期計画を支えるものであり、方針が策定されれば、文化に関する施策について方向を示していくことになる。

**【委員】** 将来的には条例については武蔵野市としても検討してもよいと思う。市民がどう思うか分からないが、武蔵野市に限らず、市外も含めた広域的な文化振興方針を示すとよいかもしれない。武蔵野市は形状も特徴的であり、市の規模としては非常に文化施設が整えられている。ユニークな方針を出せるのではないか。今はどの自治体も行政区の範囲だけを対象としているが、市民にとっては他の市の方が行きやすい文化施設もあるかもしれない。また、多くの文化施設の運営費にお金がかかる一方で、市外の利用者が多く、市民が十分に恩恵を受けることができているかもしれない。人が来て武蔵野市が賑わうことも利点ではあるため、市としては少し広めに文化振興を考えても良いのではないか。

また、一つお願いとして、近隣自治体の文化条例や文化振興方針のほか、海外の郊外都市の文化政策もできれば紹介してもらいたい。フランスでは文化都市連合として広域的に文化協定をつくり、文化政策をつくっているのが特徴的である。武蔵野市が周辺自治体と連携すれば、都市近郊のモデルケースになっていくのではないか。ありきたりの方針よりも、そのようなユニークなものを目指すことができ、やりがいがある。

**【委員】** 学校の観点から話を聞いていた。アンケートの概要版を見ると、子どもにかかわる事柄が多くなっているが、子育て中の方を中心に子どもに関する項目があれば○を付けたくなることも反映していると思う。

行政として鑑賞や体験だけでなく、活動することを含めた取組が大事だと思う。学校でも文化にかかわる機会を提供しているが、子どもにとって文化が自分事になっているかどうかが大切である。活動自体がプログラミングされ、順調に進んでいるようだが、意欲、関心を持たせるのは難しい。今年度から武蔵野市に着任し、一番驚いたのは「あそべえ」という放課後対策の事業である。公園なども含めて子どもたちの遊ぶ場所が少なくなってきた中、自由に活動できる場があることは非常に重要で、素晴らしいと思っている。先日6年生が日光に遠足に行ったときにガイドが手配できなかったため、子ども達に事前に調べて発表する形にしたが、難しい単語も含めてメモも見ずに発表している姿を見て感心させられた。単に物見遊山で行くのではなく、そのような機会を得られる達成感や自己肯定感は相当である。学校の教科では、体系的に学ぶ必要があるが、少し外れて、子どもが思い切り活動できる場があればよいと思う。子どもに関しては文化を広く捉えても良いのではないかと思った。

**【委員】** 広く浅くいくのか、個性的に行くのか。自分の経験も踏まえると、小さい頃の文化的な体験は自分の基礎となっており、大人になってもそれをベースに様々な活動ができています。今は保育園の子が多く、幼稚園と違って帰宅後時間が少ないため、お稽古事をさせることができないそうです。

武蔵野市は昔から住んでいる人が多い周辺自治体とは違い、江戸の大火や関東大震災、第二次世界大戦などで様々な地域から逃れてきた人等が集まり、寄り合ってつくられてきたまちであり、そういった歴史そのものが市の文化であると感じている。

武蔵野市民社会福祉協議会の助成金はルールが緩やかであるため、市外からのエントリーが多くて議論になったが、武蔵野市としてはいろいろな人の集まりという歴史が寛容にさせていると思う。

**【委員長】** 他の委員からも意見があったが、市職員が自主的に集まるワーキンググループもワークショップのように市民に積極的に開いていく姿勢も、ほかの自治体には見られないものである。

アンケート調査の高い数値も関心の高さを表していると思うが、関心の低い人たちのことも考えなければならない。これまで武蔵野市は関心のある人に対して、優れた文化芸術を提供し応えてきたが、実は関心のある人も市外に観に行っているのかもしれないし、届いていないのかもしれない。いままで視野に入っていない人をフォローしていくことは大事だと思う。

他の委員の言うように条例にした方がよいという意見には賛成である。ただ、資料1に示されているように他の計画ですでに話し合われている部分をこの委員会で取り上げる必要はない。最近、文化は観光と関連づけて語られることが多いが、武蔵野市として観光施策には既に力を入れている。文化振興基本方針においても観光分野で強化する必要があるれば議論すべきだが、取り上げられていないことこそ議論すべきである。

再度、資料4-1を見て何を議論すべきかご確認いただき、次回の委員会に臨んでいただきたい。不明なことがあれば、積極的に事務局にもご質問いただき、よりスムーズな意見交換ができるとうよい。

**【委員】**

2点確認させていただきたい。今回策定するのは基本方針なので、長期的なものだと理解しているが、どのくらいの期間を見据えた内容をつくっていくのか。また、誰のための計画なのか議論する必要がある。広域的にという意見があったように、市内で完結する必要はなく、市民が交通の便を利用して様々な場所で文化を堪能することはよいことであり、他の場所からも人が多く来て、武蔵野市が賑わうことも、いかにユニークで他とは違う色彩を持った文化のまちであることをPRしていくことになる。ただ、その一方で武蔵野市に住んでいる人が文化的な雰囲気を感じられるまちにするということも大事だと思う。市内で子どもが文化的な環境を感じることも大事だし、遠くまで行くのが困難な高齢者も市内で文化的な潤いを感じたいというところもあるだろう。

**【委員長】**

本日頂いた意見は、整理した上で再度議論していくことになる。そもそも武蔵野市の基本方針であるため、基本的に対象は市民であり、主体は行政であるが、いまや行政だけですべてをやるわけにはいかない。誰からどのように協力を得ていくのか考えていかなければいけない。

今後10年を見据えたビジョンをつくっていくことになることを認識している。

### 3 事務連絡

(次回日程について)

第2回 7月28日(金) 18時30分～20時30分 かたらいの道 市民スペース  
施設見学 8月4日(金) 午後(予定)

### 4 閉会